

はじめに

本学の現代 GP の取り組み「地元住民と共に学び共に創る健康生活」が無事に3年を経過し、ここにその成果を報告する機会を得ましたことを心から嬉しく思います。本学は、阪神淡路大震災の翌年、平成8年に神戸市設置の公立大学として、市民の健康と福祉に貢献する質の高い看護専門職者の育成とそのための研究をとおして看護学の発展に寄与するという責務を負っています。したがって、本学は教育理念の一つとして地域社会への貢献を明記しており、日頃から、神戸市（西区）との連携・協働による「西区ヘルスアップ作戦」「次世代育成事業」、兵庫県看護協会との提携による「神戸市看護大学まちな保健室」など、数多くの活動を展開してきました。今回の取り組みは、こういった活動を下地にして文字どおり構造的、機能的にパワーアップされたものといえます。

しかしながら、何といても本取り組みの一番の成果は、新しくスタートさせた「健康生活支援学」の目的にそって、地域や家庭を基盤とした人々の健康生活を支援する学生の看護実践能力の育成と、住民主体の健康づくり、まちづくりを大学、行政、そして住民の連携のもとに図るという教育実践が、文字どおり大学全体で最初から最後まで一丸となって実施してきたことにあると考えます。

地域での「健康生活支援学実習」終了後には、教室でみる学生たちからは想像もできないような主体的で自信にあふれた彼らの姿がそこにありました。さまざまなイベントにおける学生たちの姿からも地域の人々への配慮や貢献に誇りを感じている様子が伺えて、看護学生としての著しい成長が見て取れました。教育ボランティアの住民からは一様に、これまで自分たちが培ってきた経験が若い学生たちの役にたてるとは思いもかけない喜びだという声が聞かれました。地域住民による健康増進活動も、すでに住民自身の主体的活動のレベルにまで到達したと聞き及んでいます。地域の街づくりフェスティバルに参加した本学学生の活躍は、その実践力と指導力によって、その実行委員会から表彰を受ける結果ともなりました。

このような成果は単に参加することで得られたということではないと考えます。取り組み全体の構想はいうまでもなく、それぞれの取り組みの企画力や綿密な打ち合わせによる学生、教職員のチームワークの賜物だと思います。加えて、地域の人々のもつ生きた実践力と現場のもつ力が、成功事例はいうにおよばず、学生たちが失敗からも多くを学ぶという結果を導いてくれたのだと確信いたします。

本学の現代 GP の取り組みは、これで一応の区切りを迎えるわけですが、平成21年4月からは神戸市看護大学「健康支援地域連携センター」として、この成果をふまえて事業を継続できる運びとなったことは何よりの喜びでございます。

最後になりましたが、3年もの長い間、取り組みの推進に情熱をたやさずチャレンジし続けてこられた関係者の皆様に心から敬意を表したいと思います。本当にご苦労さまでした。

神戸市看護大学 学長 池川 清子